

ノブキの生活と花

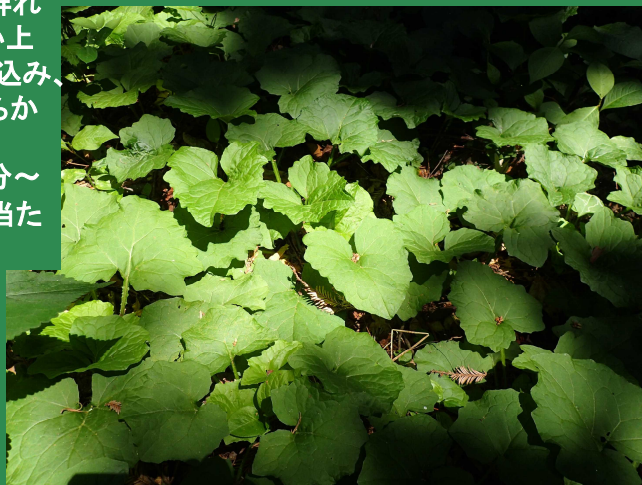
「ノブキ(野蔭)」の名前がついていますが、フキとは全く違う植物です。フキとの違いを挙げればきりがありませんが、一番違うのは、森林の林床という、暗い環境で生きていることです。

落葉樹の森の中にはたくさんの草本が生きていますが、樹木の葉が茂って森の中が暗くなる夏は、植物にとって、決して生活しやすい環境ではありません。その中で夏を中心に生活をし、特に暗くなる夏に、光を必要とするはずの葉を、たくさん広げているには、見えないところでの工夫が必要なはずです。

↓ 名前の由来になった大きなロゼット葉
弱い光を広く集めるのに適している。

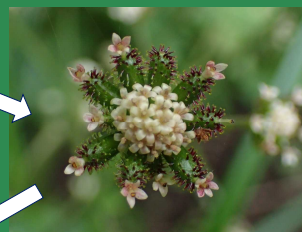


光を奪う樹木の葉の群れがある林冠が、はるか上にあるので、葉を回り込み、反射した、弱くても柔らかい光が使える。また、1日のうち数十分～数時間、木漏れ日が当たることもある



花は小さな筒状花が密集した頭花

縁に並んだ花だけが果実になる。中央の花は実らない雄花で、花粉を出すと、落ちてしまう。



果実は種子1個を含む。成熟すると腺毛から粘液を出して、通りかかる動物に粘りつく。

キンケハラナガツチバチの訪花

日当たりが良すぎると吸水が蒸散に追い付かず、脱水が進むことがあります。限界以上に脱水すれば、元には戻らないで枯れます。日向の植物は乾燥対策をしなければなりません、それでも限界はあります。

日当たりが悪い環境は、乾きにくい環境でもあります。日陰で生きるノブキは、日向の植物より乾燥に弱くても、不都合が起きることは少ないのですが、伐採や立ち枯れ、倒木によって林床に直射光が入る状態ができると、対応できないほど乾くことがあります。

